HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サプライチェーン・マネジメントにおけるインテグレーションと成果の関係［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	鎌田, 直矢
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(経営学)
Dissertation Number	甲第11641号
Issue Date	2015-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59369
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Naoya_Kamada_abstract.pdf, 論文内容の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文内容の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（経営学）　　氏名：鎌田直矢

学位論文題名

サプライチェーン・マネジメントにおけるインテグレーションと成果の関係

本研究は，日本における加工食品のサプライチェーンを分析対象とし，サプライチェーン・マネジメント（以下，SCM）におけるインテグレーション（統合）と成果の関係を実証的に明らかにすることを目的とし，6 章から構成されている．

第 1 章では，研究の目的と背景について述べた．

第 2 章では，SCM におけるインテグレーションと成果についての先行研究をレビューした．はじめに先行研究を類型化し，文献レビューの対象とする研究の範囲を明確にするとともに，その全体像を概観した．具体的には，①職能間統合の研究，②企業間統合の研究，③サプライチェーン統合の研究についてレビューを行い，それらについて批判的に検討し，先行研究の課題を明らかにした．

第 3 章では，本研究の分析枠組と研究方法について述べた．この章では，第 2 章で行った先行研究の批判的検討に基づいて明らかとなった研究課題にアプローチするための分析枠組を構築した．その後，この分析枠組に沿って SCM におけるインテグレーションと成果の関係を実証的に明らかにするための研究方法について述べた．

第 4 章では，東証一部上場の食品製造業を対象としたパネル分析を実施した．パネル分析では，各社の有価証券報告書い記載されている財務データをもとに在庫リーンネスと売上高営業利益率（以下，ROS）関係を分析した．パネル分析の結果，在庫リーンネスと ROS の関係パターンは，業界によって異なることが明らかになった．

第 5 章では，第 4 章のパネル分析だけでは明らかにすることができなかった次の 2 点を明らかにする目的からケーススタディを行った．第 1 に，なぜ，在庫リーンネスと ROS の関係パターンは，業界によって異なるのかについて検討した．第 2 に，SCM におけるインテグレーションはどのように形成され，いかにして成果に影響を及ぼすのかについて検討した．第 4 章のパネル分析では，在庫リーンネスと ROS の関係パターンは業界によって異なることが明らかとなった．しかし，なぜ業界ごとに在庫リーンネスと ROS の関係パターンが異なるのかは明らかとなっておらず，まずこの点について検討した．次に，ケーススタディを通して，SCM におけるインテグレーションを通して在庫リーンネスはどのように変化し，いかに ROS に影響を及ぼすのかを明らかにした．なぜならば，これらのこのことを明らかにすることによりはじめて個別企業の視点から見て，どのようなインテグレーションが必要であり，それをどのよう

に実現すべきかというインプリケーションを得ることが重要だからである.

第 6 章では，本研究の結論を要約するとともに本研究の貢献および問題点について述べた.